

施行.

【病理】腫瘍の大部分は扁平上皮癌からなり辺縁部に腺癌組織を認めた. t4n2M(-) stage IVa で根治度 B であった.

【まとめ】胆嚢腺扁平上皮癌は進行癌が多く予後不良とされるが, 拡大手術により 5 年生存を得られた一例を報告した.

25 最近経験した膵管内乳頭腺癌の 1 例—十二指腸総胆管温存膵頭亜全摘 4 例の経験から—

黒崎 亮	・佐藤 攻	(信楽園病院)
若井 俊文	・清水 武昭	(外科)
栗田 聡	・森 茂紀	
柳沢 善計	・村山 久夫	(同 内科)
森田 俊		(同 病理)
加村 毅		(新潟大学 放射線科)

症例は73歳, 女性. スクリーニングの腹部 CT にて膵鉤部に嚢胞様病変, 主膵管の拡張を指摘. 乳頭部内視鏡像にて乳頭口の開大, 粘液の排出, 超音波内視鏡にて膵鉤部嚢胞内に隆起性病変がみられた. 分枝型粘液産生膵腫瘍の診断にて十二指腸胆管温存膵頭亜全摘術を施行. 下頭枝領域に膵管内乳頭腺癌がみられた.

【考察】粘液産生膵管内腫瘍は主膵管型, 嚢胞径 3 cm 以上, 主膵管径 5 mm 以上, 有症状例であ

れば癌の可能性があり, 手術適応とされている. 我々の施設では膵頭部に限局し, 膵外進展のない症例では, 臓器温存を考慮し, 十二指腸胆管温存膵頭亜全摘術を選択している.

26 巨大な肝門部腫瘍を形成した胆嚢腺癌と肝細胞癌の衝突癌の 1 切除例

北見 智恵	・黒崎 功	
大橋 泰博	・加藤 崇	
二瓶 幸栄	・佐藤 好信	
中塚 英樹	・白井 良夫	(新潟大学 第一外科)
畠山 勝義		
山野 三紀		(同 第一病理)

症例は56歳男性で, 腹痛, 上部消化管通過障害のため入院した. 術前画像学的に腫瘍の原発, 質的診断は得られなかった. 腫瘍は急速増大傾向にあったが, 膨張性発育を示しており, 切除可能と判断した. 手術は右肝 3 区域切除, 膵頭十二指腸切除, 門脈再建を行った. 摘出標本は 3.2 kg で, 組織学的に, 高分化型腺癌と浸潤部で扁平上皮癌を含む胆嚢癌と低分化型肝細胞癌との衝突癌と診断された. 術後経過は順調であったが, 術後 2 ヶ月半で再発・死亡した. 胆嚢癌の多方向性分化の可能性もあるが, 病理学的に非常に稀な症例と考え報告した.